

記

一、事業主側

會社側ニ於テハ解雇者以外ノ職工カ極力應援スル態度ニ以テ  
總業ヲ為セルニ稍困難シ當應調停課ニ讓歩方申出ワルニ至レ  
リ

二、争議團側

争議團側ニアリテハ解雇セラレサル職工ト提携シ強硬ナル態  
度ヲ持シ他面東京金屬ノ來援ニ對シ今組合ニ加入スルノ可否  
ヲ諮リタルニ大部分ハ加入スルヲ肯セズ從業員ノミヲ以テ交  
渉スルコトニ決定シ職場員ノ結果ヲ留ルコト、セリ

三、調停状況

五月以來當應調停課ニ於テ勞資ノ主張ヲ折衝セルカ會社側ノ  
表示セル解雇手省額ハ不承認ナル旨答申セルモ再考ヲ促サレ  
タルニヨリ工場ニ於テ再協議セルカ調停謝絶マルコト、ナレ

他面就業中ノ職工ハ交友會ノ名ニシ會社社内取締彼ト會見シ  
會社ニ於テ職首者ニ對スル手當ノ増額ニ付再考セラレタキ旨  
交渉スル趣アリテ引續キ總業セリ

斯クシテ調停課ニ於テハ一時決裂ノ状態ナリレカ更ニ兩者ノ互  
譲ヲ勧告シタル結果七日右五時ニ至リ左記覺書ノ通リ滿解決  
セリ

覺書

日本計器製造株式會社對從業員ノ勞働争議ハ今回調停官ノ斡  
旋ニ依リ左記条件ヲ以テ日滿解決シタルニ就テハ茲ニ覺書ノ  
通作成シ當事者双方及調停者各一通之ヲ保持スルモノトス

九記

一、會社ニ於テ景ニ解雇ヲ發表シタル從業員十九名ハ自後會社  
トハ一切無關係タルコト